THY KINGDOM COME

THY KINGDOM COME

み国がきますように

ノベナ

（9 日間の祈り）

司祭　ボブ・キー 著

THY KINGDOM COME

み国がきますように

ノ　ベ　ナ（9 日間の祈り）

司祭　ボブ・キー　著

序　　章

世界的なうねりとなっている Thy Kingdom Come「み国が来ますように」の祈りは、聖霊の賜物が注がれるのを待つようにと諭されたイエスの命令に従った初代教会の人々の、実践と体験に基づいています。

使徒言行録 1：14 は、彼らの宣教計画が、絶え間ない革新的な祈りに根差していたことを示しています。

> **14「彼らは皆、女たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて、ひたすら祈りをしていた。」**
>
> **使徒言行録 1：14**

この頃、初代教会の人々は明らかに困惑し、確信がもてず、任務の重大さを考えれば恐らく恐怖さえ感じていたと思われます。しかし、彼らは自分たちが愛されていることを、また主の死と復活によって赦されていることを知っていたので、全く新しい世界の縁に立って奮い立つ気持ちでもあったでしょう。

「み国が来ますように　ノベナ（9 日間の祈り）2023 年度版」は、ヨハネの手紙 I の聖句に焦点を当てています。そこには神と神がなされたすべてのことについての喜びが表現されています。中心にあるのは、神のダイナミックな創造と救いのみ業です。それは愛と希望、挑戦と平和の物語です。今の、この時とこの場だけではなく、永遠に神の命と愛を共有するようにと、力強く招いてくださっているのです。

「み国が来ますように」は、英国のみならず全世界のクリスチャンと教会に向けて発せられる年に 1 回の招きと励ましで、私たちが神のみ国を実現し共有できるよう、聖霊が私たちの内に住んでくださるよう求めるものです。この情熱が教会生活の活力の源です。この情熱があることで、人間の組織はキリストの体に変えられるのです。

「み国が来ますように」のポイントは、私たちが「5 人のために祈る」ことです。これは、未だ主イエスに連なっていない 5 人の友人や家族、隣人や同僚を、神のみ前へと誘う招待状です。聖霊が彼らの心と思いを、神の愛、赦し、平和へと開いてくださるよう、祈ることへの励ましです。

聖霊降臨日に、使徒たちは聖霊が降るしるしを受け取りました。すなわち、力を示す風、聖なる炎、コミュニケーションを図るための言葉です。聖霊降臨日に神は、全世界がクリスチャンに目を向け、イエスの福音を見聞きする権限をお与えになりました。私たちは「み国に生きる」ように召されているのです。ですから、日々の私たちの思いは、神が何をなさるかに始まり、私たちが何をするために召し出されたか、で終わります。

この「み国が来ますように」を通して、アングリカン・コミュニオンに属する私たちすべてを導いてくださるボブ・キー司祭に感謝申し上げます。今年度のノベナを執筆してくださり、ヨハネの手紙Ｉの刺激的で挑戦的なみ言葉を、21 世紀の生活に適したものにしてくださいました。

素晴らしい写真は、メリーランドのローズランド・バプテスト教会、アーロン・バーデン牧師によるものです。神のみ国の多様性と、神の愛が全世界へ届くことを見事に示してくれています。

私たちが「聖霊よ、おいでください」と祈るとき、皆さんも私たちと共におられることを願います。

カンタベリー大主教　ジャスティン・ウエルビー
ヨーク大主教　　スティーブン・コットレル

1. .....

2. .....

3. .....

4. .....

5. .....

昇天日

統べ治める神

使徒言行録１：10－11

10 イエスが昇って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、
白い衣を着た二人の人がそばに立って、言った。
11「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなた
がたから離れて天に上げられたイエスは、天に昇って行くのをあなた
がたが見たのと同じ有様で、またお出でになる。」

聖書には、天使たちが発するびっくりするような台詞がいくつかあります。ガブリエルはパレスチナの質素な家で10代のマリアに現れ、「恐れることはない」と言います。ベツレヘム郊外にいた、信仰心の篤い人たちとは見なされていない羊飼いたちは、彼らにとって大きな喜びとなる良い知らせがもたらされることが告げられます。昇天日の物語も同じです。天使たち（白い服を着た若者）は、弟子たちに問いかけます、「なぜあなた方は天を見上げて立っているのか？」と。12使徒の1人は、こう思ったにちがいありません。「私たちがなぜこんなことをしていると思われますか？イエスはたった今、天に昇ってしまわれ、この6週間というもの、私たちの価値観はひっくり返されてしまったのです。イエスが亡くなるのを目にしながら、復活された主に再会し、赦され、生まれ変わり、教えられるという素晴らしい時を共にしていたのですから。」

私はペトロ、ヤコブ、ヨハネらに、全く同情します。

天使たちはとても明快です。イエスは去ってしまわれ、弟子たちに何をすべきかを語られました。彼らは聖霊の賜物を待つことになるのです。そして、主のみ力のうちに、全世界へと、しかも存在すら知らなかった場所へと歩んでいくことになるのです。彼らは、イエス・キリストにおける救いという神の福音を宣言することになるのです。悔い改めて、救い主を信じるようにと、人々に呼びかけることになるのです。

それは過去、現在、そして未来において、いつも教会に与えられている務めです。聖書的な明快さと簡潔さにおいて、それがすべてです。天に昇られ栄光のうちに統べ治めておられる主は、私たちに1つの大きな任務を与えてくださいました。私たちはイエスの福音を示し伝えなければならないのです。使徒言行録の中でルカは、この素晴らしい福音が、あらゆる癒し、説教、文化的障壁の崩壊という形で、またエルサレムの貧しい人々への食物の提供や、パウロがアテネやその他の地で学者たちと対決するという形で、明らかにされることを私たちに示しています。

昇天日から聖霊降臨日までの道筋を旅するとき、私たちは最初の弟子たちを手本とすることになります。彼らは今までに祈ったことがないように祈り（使徒言行録 1：14)、宣教するための計画を立てました。まだイエスに従っていない私たちの5人の友のために祈ることは、統べ治める神のなさるみ業に参加する 1 つの方法です。使徒言行録に出てくる最初の弟子たちのように、私たちもみ国を実現することになるのです。私たちの言葉や行いのすべてが、福音の宣言の一部になるのです。私たちが神の広告塔となり、この世における神の愛の生きたアイコンとなるのです。

第１日目

存在する神

ヨハネの手紙Ⅰ　1：1−2

[1] 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたもの、すなわち、命の言について。
[2] この命は現れました。御父と共にあったが、私たちに現れたこの永遠の命を、私たちは見て、あなたがたに証しし、告げ知らせるのです。

何よりもまず、「初めに神は」が聖書の最初の言葉です。そして、ヨハネによる福音書は「初めに言があった」で始まります。ヨハネは第1の手紙で、この2つを結び付けています。永遠の命は神の良き知らせです。父と子、そしてヨハネがこの手紙で明確に示しているように、聖霊は神が与えてくださる無償の賜物なのです。

神は正真正銘の愛です。キリストの信仰を宣言することで有名なビリー・グラハムが言うように、「神は寂しさから人間をお造りになったのではありません。神は愛だからそうされたのです」。神は私たちを愛しておられ、その関係性を愛しておられます。創世記には、創造が神の語りとして描かれています。

神は語られ、そして事が起こります。天地万物は広がり、世界が形となっていきます。光、闇、色彩、手触りが、創造の美しい驚異の中で1つとなります。小さすぎて見えないような微生物、広大すぎて理解できないような銀河系などのすべてが、神のご計画の中で、あるべき場所に置かれます。科学的理論は創造がどのようになされたかを理解する助けにはなるかもしれませんが、聖書は誰がそれを行ったかを教えてくれます。神が世界を創造されたのです。神が私たちを創造されたのです。創世記のレンズの焦点が、1 つの惑星と 1 つの種に合わさることで、神は人間を、ご自身の姿に似せて愛し愛されるものとしてお造りになったことを私たちは知るのです。私たちは交わりを持つ者として、お互いだけでなく、神との交わりを持つ者として、造られているのです。

交わりの次には、責任が生じます。私たちは神との交わりを持つ者であるという文脈の中で、神が私たちにお与えになった創造における責任を担わなければなりません。神は私たちを愛し、神との深い霊的交わりのために私たちを創造されたのです。

これこそが、創世記で描かれているように「その日、風の吹く頃」（創世記 3：8)、神が楽園の中で男と女を探された理由です。そもそもそれは、一日の仕事が終わり、友人たちが集まっておしゃべりを楽しむ時刻だからです。

ヨハネは神を、信仰をもつ者にとって興味深い人生の「付属品」として語っているわけではありません。神は神です。神は、最初（創世記の中で、モーセに自らを明かされるために使われた）から、最後（ヨハネ 8：58 でイエスが使われた）まで、偉大な「私はある」なのです。イエスはヨハネ 8：58 で、ご自身に対してもそのように言っておられます。イエスこそが、私たちを造り、愛し、イエスの家に迎え入れ、私たちが好むと好まざるとにかかわらず、信じようと信じまいと、神を求めても求めなくても、そこにいてくださるのです。イエスは、存在する神そのものなのです。

今日、時間をとって5人の知り合いのために祈り、彼らに対する神の愛がどのようなものであるかを求めて祈ってください。彼らのために祈るとき、私たちはこの世にあってキリストの似姿であることを、また私たちも創造に関心をもち、私たちの周囲にいる人々のニーズに応えるという形で、神の愛のアイコンとなっていることを覚えてください。

第２日目

愛する神

ヨハネの手紙Ⅰ　４：７－８

7 愛する人たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、
愛する者は皆、神から生まれた者であり、神を知っているからです。
8 愛さない者は神を知りません。神は愛だからです。

人生とは、愛の探求であると考えられます。私たちは愛を与え、また愛を受けることを求めます。新約聖書は、もとはギリシャ語で書かれていますが、愛という言葉には様々なギリシャ語が使われています。それらは、愛することと愛されることがどういうものであるか、私たちが見出し、理解できるように様々な方法で表現しています。

今日のみ言葉では、そのうちの 1 つだけが使われています。それはギリシャ語の「アガペ」です。ヨハネはこの言葉を 2 節の中で 6 回も使っています。この愛は特別で、ほかとは異なっているのです。この愛は神の心をその源とし、犠牲的な表現としてのキリストの十字架を示し、キリストと同じレベルの無償の愛をクリスチャンにもたらす聖霊の力を備えています。

これが聖なる三位一体の神の愛で、神の恵みと力なくしては生み出せない愛の応答を、私たちから引き出してくれます。アガペの愛は、愛である神の心を表しています。これは、他のどんな愛よりも偉大であると、イエスが示してくださった愛なのです。この無償の愛が「規定の病」の人に触れ、見捨てられた人たちを抱きかかえ、上流社会が非難した人々を迎え入れ、十字架の上でみ腕を広げて世界を包んでくださるのです。

ヨハネはこの神からの愛を、単に理解するだけでよし、としているのではありません。彼は読者がその愛の中で休息し、罪が赦されたという安心感を得、聖霊の強い力で、自己本位と罪の奴隷から解放されることを願っているのです。しかしそれだけではなく、もっと多くを求めています。クリスチャンとして私たちは、神からもたらされ、ヨハネが「神は愛である」と語る神の本質を実践するような愛、そうした愛の器となるべきなのです。

どのような教会であっても、主との交わりにおいて、あるいはクリスチャン仲間との交わりにおいて、あるいはキリストが救いのために来られたこの世界との交わりにおいて、その聖なる愛を実践することに失敗するなら、それは悲劇です。パウロは「その中で最も大いなるものは、愛です」（Ｉコリント 13 章）と書き記し、ヨハネの黙示録でイエスはエフェソの教会に宛てて、「あなたは初めの愛から離れてしまった」（黙示録 2 章）と書いています。霊的な手本となる神のみ言葉に目を留めて、私たちの愛が完全なものとなるよう主に願いましょう。

今日、私たちが 5 人の友のために祈るとき、彼らが愛を必要としていることを覚えましょう。彼らの感情的また身体的なニーズを神のみもとへ届け、彼らが主の永遠の愛、主の癒し、命と光に心を開くようにと祈りましょう。現代において、神のみ国に生きるということは、使徒からの単刀直入な命令、すなわち「愛する人たち、互いに愛し合いましょう」に従うことです。それが、福音の真実を他の人々に確信させた初代教会の、生きたしるしだったのです。

第３日目

分かち合う神

ヨハネの手紙Ⅰ　4：9

9神は独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、
私たちが生きるようになるためです。ここに、神の愛が私たち
の内に現されました。

「それがどんなものか、あなたには分かりません！」という言葉は、絶望、欲求不満、痛みの叫びです。誤解されていると感じたとき、私たちが受けているプレッシャーを友達が全く理解していないように見えるとき、不当に判断されたり、批判されたりしていると感じたとき、私たちは叫びたくなるのです。「私の靴で歩いてみなさい。私のように生きてみなさい」と。

神とは一体どのような方であるか、特に神の偉大さ、威厳、栄光など…あらゆるものの創造主がもつ「スゴイ！」という要因を重要視する偉大な聖書の言葉について考えていくと、次のような思いがよぎります。「では、私の 2023 年の日々について、主はどう考えてくださるのだろうか」と。神は傍観者、観察者、おそらく全知全能ではあっても、遠く離れていて関与しておられないのではないか？

この手紙の中で、ヨハネは創造主の偉大さと栄光を強調しています。彼は、救いの物語全体を動かす、神の交わりの勝ち誇る愛を力説します。そして、さらに素晴らしいことが書かれています。今日の聖句で私たちは、この主が遠くにおられる無関心な傍観者ではなく、むしろ日々の人生を生きるとはどういうことかを理解してくださる方であると確信するのです。なぜなら、神ご自身が主イエス・キリストとなって来られたからです。このように私たちの世界に来られたということは、神が私たちを 100%理解してくださっていることを保証しています。なぜなら、神は私たちと人生を共にしてくださり、私たちの靴を履いて歩いてくださっているからです。

ヨハネによる福音書が「言によらずに成ったものは何 1 つなかった（ヨハネ 1:3)」と語るように、言（ことば）によらずという概念には、ナザレの大工や、占領された国で虐げられた民族の一員になるということを示すだけでなく、マリアの胎内にある顕微鏡で見るような胎児にもなられたということです。

今日、5 人のために祈るとき、神学者が神の超越性と内在性と呼ぶものが何であるかを、また神の栄光と神の近さとを彼らが垣間見ることができるように、と祈ましょう。神が彼らを理解してくださる友であることを、また愛してくださる主がおられることに、彼らが気付けるように。

この聖句は、愛が単なる感覚ではなく、意思による決意であることを思い出させてくれる素晴らしい言葉です。私たちが神のみ国を生きるとき、それは前向きな行動として現れます。私たちは、食べ物で飢えている人を、交わりで孤独にある人を満たします。謙虚さと誠実さをもってイエスのために生き、また語ることで、私たちは未だキリストを知らない人々を愛することになります。

第４日目

救う神

ヨハネの手紙１　４：９－11

9神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、私たち
が生きるようになるためです。ここに、神の愛が私たちの内に現され
ました。10私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私た
ちの罪のために、宥めの献げ物として御子をお遣わしになりました。
ここに愛があります。11愛する人たち、神がこのように私たちを愛さ
れたのですから、私たちも互いに愛し合うべきです。

あなたが泳げないとしましょう。何人かの人には、それほど難しい想像ではないでしょう。あなたは深い水の中にいて、底に足がつかず、疲れ果て、怖くて、パニック状態に陥りそうになっていると想像してください。何が必要でしょう？ 誰かが、「泳げるようになるには」というテキストの初めのところを読んであげよう、と申し出たとしましょう。別の友人は、すぐそばで泳いであげるので、それを真似するようにと言ったとしましょう。どちらも大した助けにはなりません。教本や、すぐにはマネのできない理想形は不要であり、完璧な他人の姿を見ることも全く役には立ちません。

あなたに必要なのは救助員です。教えることや奮い立たせることは必要ではありません。あなたに必要なのは救われるということです。

ヨハネには、これが一番肝心であることがはっきりわかっています。神の御子が世に来られたのは、このためです。“動機”は愛、“目的”は永遠の命、“手段”は十字架でした。2000 年にわたって、クリスチャンは様々な方法で、十字架上の主イエスの死が何を意味するのかを語ってきました。私たちが神とともに正しくあるようにと、いろいろな角度から神のみ業を見ると、ダイヤモンドのように、神の愛はプリズムの輝きを映しだします。今日のこの聖句で、ヨハネは彼の聴衆に非常によく知られている言葉、すなわち献げ物（いけにえ）という言葉を用いています。旧約聖書の背景のすべてが、はっきり見えてきます。そこでは、人々は赦しを得るために、神にいけにえの動物を献げていました。いけにえの献げ物が死ぬことで、賛美する者が生かされることを示しています。

十字架が機能するのは、私たちがそれを十分に理解できるとか、そのことについて完全に説明できるからではなく、聖なる愛に満ちた神が、それが機能していると言われるからなのです。海に入る人は、水泳の原理や、救助員がどこで泳ぎ方を学んだかを知る必要はありません。救助者を信頼することだけが必要なのです。ヨハネが福音書で述べているように、私たちはイエスを信じ抜く必要があります。自分に依り頼もうとしたり、神のためにふさわしくなろうとすることを止め、自分自身が救われるようにすべきなのです。

死を目前にした十字架上で、横におられるイエスの方を向いて「主よ、私を思い出してください」とだけ言った盗人は、神学をよく知っていたわけではありませんが、彼には何が自分に必要かがわかっていました。それに応えて、イエスは彼に天の楽園を約束しました。

あなたの 5 人の友がキリストに救われ、他の誰かの腕の中に抱かれれば安全であると知る平安を、見つけられるように祈りましょう。

神のみ国に生きるとき、私たちが他人よりも優れていると思うようなものは何もありません。むしろ、私たちの日々の生活や発する言葉は、偉大な神学者パウル・ティリッヒが言うように、「ある物乞いが、別の物乞いに食べ物のありかを教えている」に過ぎないのです。

第５日目

与え続ける神

ヨハネの手紙Ⅰ　３：１〔新共同訳聖書〕
[1]御父がどれほど私たちを愛してくださるか、考えなさい。
それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、
そのとおりです。

今日の聖句には、ヨハネが「スゴイ！」と思った瞬間があります。使徒たちでさえ、神がいかに偉大であるかを表現するのに苦労することがあるというのは励ましになります。神の愛、神の思いやり、神の栄光、神の英知、神が主なるイエス・キリストとして私たちのもとに来られたことに、ヨハネは言葉を失うほど驚いています。最終的にヨハネは、神の賜物は創造であり、ご自身を献げられたことだという形でまとめています。彼が用いた表現は「異なる世界からの愛」というような意味になります。

人間の理解力ではそれを理解することはできません。しかし、素晴らしいことに、私たちはそれを知ることができ、受け止め、憩い、楽しみ、分かち合うことができるのです。創世記は、人類が神の似姿に造られたことを教えています。ヨハネはここで、もしキリストを信じているなら、私たちはすでに神の子として生まれ変わっている、と教えています。そしてこの真実がヨハネをひどく興奮させているのです。

父は私が5歳の時に亡くなったので、私には父の記憶はほとんどありません。写真では、私たちはよく似ています。でも、もし私が自分は本当は誰の子なのかを知りたくなったとすれば、書類棚を開けて、出生証明書を見さえすればよいのです。今日の聖句にある「事実また、そのとおりです！」の偉大な言葉は、クリスチャンの出生証明書なのです。私たちの確信は自分の感覚からではなく、神の力ある言葉に基づいています。現代語訳でも「惜しみなく」という言葉を使って、寛大で、高価で、献身的な神の愛を表しているのは、当然のことでしょう。

心に覚える5人が、父なる神の愛を受け入れ、そこで安らげるようにと祈りましょう。御父の愛は、彼らを絶えず招き入れ、神の家の子どもにしてくださいます。神にあって平和を見出せるよう、そして私たち人間が創造され贖われたのは、神の家族の一員となるためであり、そこに彼らが居場所を見つけられるように祈りましょう。

神のみ国に生きること、王の息子、娘として生きるということは、こうした寛大さを分かち合うことです。5,000人を養った場面で、12個のかごが残り物で一杯になりました。お腹をすかせた群衆を見ながら、イエスは弟子たちに「あなたがたが彼らに与えなさい」とおっしゃいました。イエスは今でも、そうおっしゃっています。私たちが神のみ国の寛大で溢れるほどの愛の中で生きることによって、かつて飢えていた人は満たされ、孤独だった人には友人が与えられ、囚人には訪問者があり、貧しい人は福音の良い知らせを理解することができるのです。

第６日目

理解する神

ヨハネの手紙Ⅰ　4：11－12

11 愛する人たち、神がこのように私たちを愛されたのですから、私たちも互いに愛し合うべきです。12 いまだかつて神を見た者はいません。私たちが互いに愛し合うならば、神は私たちの内にとどまり、神の愛が私たちの内に全うされているのです。

弟子たちというのは、自然に団結した人々ではありませんでした。自分たちだけだったら、共同でビジネスを立ち上げるとか、休みを皆で取るというような選択肢はあり得ないことでした。マタイは、占領下のローマ行政府のために働く徴税人でした。熱心党のシモンは、カエサルに税金を支払うことに反対するグループに属していて、そのうちの何人かは反乱にも加わっていたのです。

ガリラヤ湖で家族経営の漁師をしていたヤコブとヨハネは、おそらく彼らの激しい気性と権力への欲望から「雷の息子」として知られていました。この同じヨハネは、彼の名を冠した福音書で、自分自身を「イエスが愛した弟子」と呼んでいますが、このヨハネの手紙では「愛の使徒」となっています。彼の人生は完全に変えられてしまい、彼の性格は、主イエスとの交わりと聖霊の力によって、１８０度転換してしまったのです。

私たちの周りには、あらゆるところに分断が見られます。性別、人種、言語、教育、しつけ、国籍。それ自体、神の創造の多様性に寄与しうるものが、誤解、争い、敵意、さらには暴力のもととなっています。

私たちの天の父は、芸術の大家のように、豊かで多様な色が備わったパレットを持っておられ、それは神の被造物の美しい絵を描くためにあるのですが、私たちの罪深さと利己心や、プライドと恐れの中にあっては、邪悪な混乱に変えられてしまうのです。この混乱の中では、貧しい人々はしばしば、神の世の頼れる庭師にはなれないという最大の代償を支払うことになるのです。

ヨハネは今日の聖句で、私たちは他の何によってでもなく、神の愛によって定義づけられるようにと呼びかけています。パウロは、ガラテヤの信徒への手紙第 3：28 で、はっきりこう述べています。

「ユダヤ人もギリシア人もありません。奴隷も自由人もありません男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです。」

あなたの 5 人の友が、キリストにあって、自分は誰なのかというアイデンティティーを見つけられるよう、祈ってください。

神のみ国で生きるということは、「互いに愛する」ということが、単に自分たちと同じような人を好きになることではない、と考える教会や共同体を築くことでなければなりません。私たちは、はるかに過激で魅力的なもののために召し出されているのです。仕える者としての共同体、すなわち、人が作り出した分断と差別につながる障壁を越えて、互いに仕え、仕えられる共同体になるようにと、私たちはデザインされているのです。

第７日目

赦す神

ヨハネの手紙Ⅰ　1：8−9
自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理は私たちの内にありません。私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、あらゆる不正から清めてくださいます。

心理学者、作家、有名人、聖人は皆、罪の意識に遭遇し、様々な方法で対処します。一部の人々は、罪の意識は子どもの頃に学んだものだと見なします。また他の人は、罪悪感は人類が実際に行っているよりもさらに悪いことをしないよう、歯止めをかけるポジティブなものだと考えます。しかしまた、私たちに備わっている豊かな可能性に気づくのを止めてしまうような、ネガテイブな感情であると考える人もいます。たとえば、その成功が、周りの人々の暮らしを犠牲にすると考えています。

ヨハネは驚くほどシンプルで、率直で、現実的かつ実践的です。彼は私たちに、鏡を見て真実を認めるようにと勧めます。私たちは誰一人として完璧ではありません。もし私たちが、「罪人」という言葉は他の人のためにあるのだと考えるなら、それは全く間違っています。

刑務所の中でさえ、犯罪者の格付けが行われることが多くあり、暴力がらみではない犯罪者は、暴力的な犯罪者よりもマシだ、とみなされることがあります。暴力的な犯罪者は、「少なくとも殺しはしなかった」と考えることができるのです。

刑務所の中であっても外であっても、見下すことができる他人を探し出して、良い気分になるのはとても簡単です。

ヨハネにとっては、正しい診断で大きな解放感が得られます。今日の聖句を読むということは、医者のところに行って、悪い知らせも良い知らせもあるよ、と言われているようなものです。悪い知らせとは、思わしくない何かがあるということです。良い知らせとは、絶対失敗しない治療法があるということです。

アウグスティヌスは、「悔い改めの涙は、罪の汚れまで洗い流す」と言いました。私たちは平和、赦し、十字架の贖いを求め、さらにイースターの朝に自分の罪を告白しキリストを信じることで、回復と復活を求めます。今日私たちが５人のことを考え、祈っているのは、そのためです。聖霊が彼らの目を開かせ、絶望につながる否定的な罪の意識ではなく、希望と、イエスにあって赦される喜びにつながるよう祈りましょう。

神から自由に愛され、赦されていることを知っている人として、神のみ国を生きるということには、刑務所にいる人のように想像上の優越感を感じる余地はありません。私をおいてほかには、キリストが死ななければならなかった人はどこにもいないのです。ですから、聖霊の力のあるところでは

・プライドが謙虚さに、
・権利が責任に、
・自分本位が仕えることに代わるのです。

第８日目

挑戦する神

ヨハネの手紙Ⅰ　２：６
　６神の内にとどまっていると言う人は、イエスが歩まれたように、
　自らも歩まなければなりません。

愛する父なる神は、私たちのために最上のものを求められるだけでなく、私たちにも最上の行いが可能となることを求めておられます。神は、聖霊の命と力の中で、私たちが可能な限り、最も豊かで最も価値あるクリスチャン人生を送ることを望んでおられます。

ヨハネの手紙Ｉから引用された今日の聖句は、単刀直入で強引に見えますが、それは否定的なことを意味しているわけではありません。サッカーの監督が、困難な対戦相手と戦っているチームに大声で激励するのは、彼らを成功へと駆り立てようとしているからです。それと同じことが、ここで起こっています。ヨハネは、教会のクリスチャンたちが非常に厳しい世界でイエスのために生きようとしていることを知っているので、彼らが誰のチームにいるかを思い出すよう、励ます必要があると考えています。21 世紀の世界においても、キリスト教の信仰が、一般の社会生活、ビジネス倫理、あるいは政府の運営方法における、道徳的ガイドラインになっていないのは事実です。私たちにも同じ励ましが必要なのです。

私たちはキリストの色彩の中で活動しており、私たちが寄り頼むべきは、一般に広まっている文化基準ではなく、神の基準でなければなりません。ヨハネの言葉は、私たちの世界に直接かかわる大変重要なものです。この世には、キリスト教信仰を公共の場から吹き飛ばし、キリスト教の道徳基準を現代思想からはかけ離れたものとしてあざ笑おうとする多くの勢力が存在しているからです。

ヨハネが求めているのは、まっすぐなクリスチャンの誠実さです。あることを言いながら、別のことをするようではいけません。偽善は、キリスト教宣教において本質的な問題です。私たちが信仰を知人と分かち合おうとするとき、他者を気遣うイエスのやり方を私たちが手本としていなければ、何の意味もありません。

ヨハネが用いる言葉は、単に「歩く」を意味しているのではありません。それは人々の間を「歩き回る」ということです。歩き回るためにどの服を着るか、を意味するとも言えます。パウロも、ガラテヤの信徒への手紙 5：16 で「霊によって歩みなさい」と私たちを励まされたときに、同じ言葉を使っています。ヨハネやパウロから示されているのは、日々の挑戦は、自分に備わった力によってではなく、聖霊降臨日の聖霊の力によって生み出されるキリストの人格をまとって歩き回ることなのです。

今日、5 人の人々のために祈るとき、彼らが出会うクリスチャンの日々が、聖霊のダイナミックな力の中にあってキリストらしい、また魅力的なものであるように祈りましょう。

神のみ国を生きるということは、段ボールの切り抜き、すなわち表面的にはクリスチャンであっても、内面の深さとリアルさが少ないもの、であってはならないということです。神は、私たちの中にキリストの人格を見る権利を、この世に与えておられるのです。

第９日目

力を与える神

ヨハネの手紙Ⅰ　4：13

13 神は私たちにご自分の霊を分け与えてくださいました。
これによって、私たちが神の内にとどまり、神が私たちの
内にとどまってくださることが分かります。

私はこれをナイアガラ効果と考えています。カナダとアメリカの国境にあるナイアガラや、ザンベジ川にあるビクトリアのような大きな滝に行ったことがあるなら、あるいは写真を見たというだけでも、無限の水の流れは想像できるでしょう。水量、パワー、水にかかる光の見事な色の配列は、すべて一体となって、神の創造物の畏れを抱くほどの美しさを現わしています。

では、その写真をもう一段アップして撮ってみましょう。滝底で、あなたがコップかグラスを持っていると想像してください。喉の渇きを癒す力ある水が、無限に注がれるのです。それがナイアガラ効果で、聖霊降臨日の聖霊の力がイメージできる絵柄です。

私たちが明日祝う聖霊降臨日は、イエスが「父の約束されたもの」（使徒言行録 1：4）とおっしゃったものが訪れる日です。聖霊は、イエスの福音を分かち合うために、初代教会を快適な場所から世界へと吹き飛ばしました。彼らは、深い意味と力に溢れたしるしを伴って来られた聖霊の豊かさに満たされました。

ルカによると、霊に満たされる体験は、福音の新しい機会が開かれたり、新しい状況が発生するたびに、何度も起こっていることでした。パウロが聖霊の満たしについて語るときの言葉は、文字通りには「霊に満たされ」（エフェソの信徒への手紙 5:18）と訳すことができます。これはギリシャ語の現在時制で、継続的な行いを示します。私たちは聖霊に、絶えず満たされ続けるということです。それがナイアガラ効果。私たちの人生の眼鏡は、聖霊なる神の無限で、ダイナミックで、力強い流れの下にあるとき、私たちの霊的な必要のすべてを満たすのには十分です。恐らくもっと重要なことは、キリストの愛、恵み、力、そして救いが、私たちの周りの人々に溢れるほどに注がれているということです。

ここに、ヨハネが今日の聖句をどのように構成したかが表れています。聖霊は信じる者のところに来られ、その結果、私たちはイエスが世の救い主であることを知り、また分かち合うことになるのです。私たちの中におられるキリストと、世にある福音です。それこそが、明日の聖霊降臨日の祝日が意味するものです。

聖霊なる神が、今日、私たちの 5 人の友の人生を開き、満たしてくださることを祈りましょう。

私たちは自分の力で「神のみ国を生きる」ことはできません。しかし、聖霊のナイアガラ効果があれば、なんでも可能なのです。

聖霊降臨日

全世界の神

使徒言行録　2：1－4

[1]五旬祭の日が来て、皆が同じ場所に集まっていると、[2]突然、激しい
風が吹いて来るような音が天から起こり、彼らが座っていた家中に
響いた。[3] そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の
上にとどまった。[4]すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるまま
に、他国の言葉で話しだした。

待ち時間は終わりました。聖霊降臨日はやって来ましたが、彼らが予想していたものは、これではありませんでした。聖霊降臨日というのは、もともと収穫祭でした。それについてはレビ記 23 章に書かれています。

聖霊降臨日の話はすべて、しるしについてであり、神は収穫祭のしるしを用いて、新たな収穫、穀物の収穫ではなく人の収穫、を指し示しておられます。それはイエスが福音書の中で、畑仕事の比喩を好んで用いられたときに使われたテーマです。イエスは、神の愛の真実と、神がもたらされた福音に対する信仰の応答が直ちに必要であることを人々が理解しやすいよう、譬えを用いて教えられることが多々ありました。

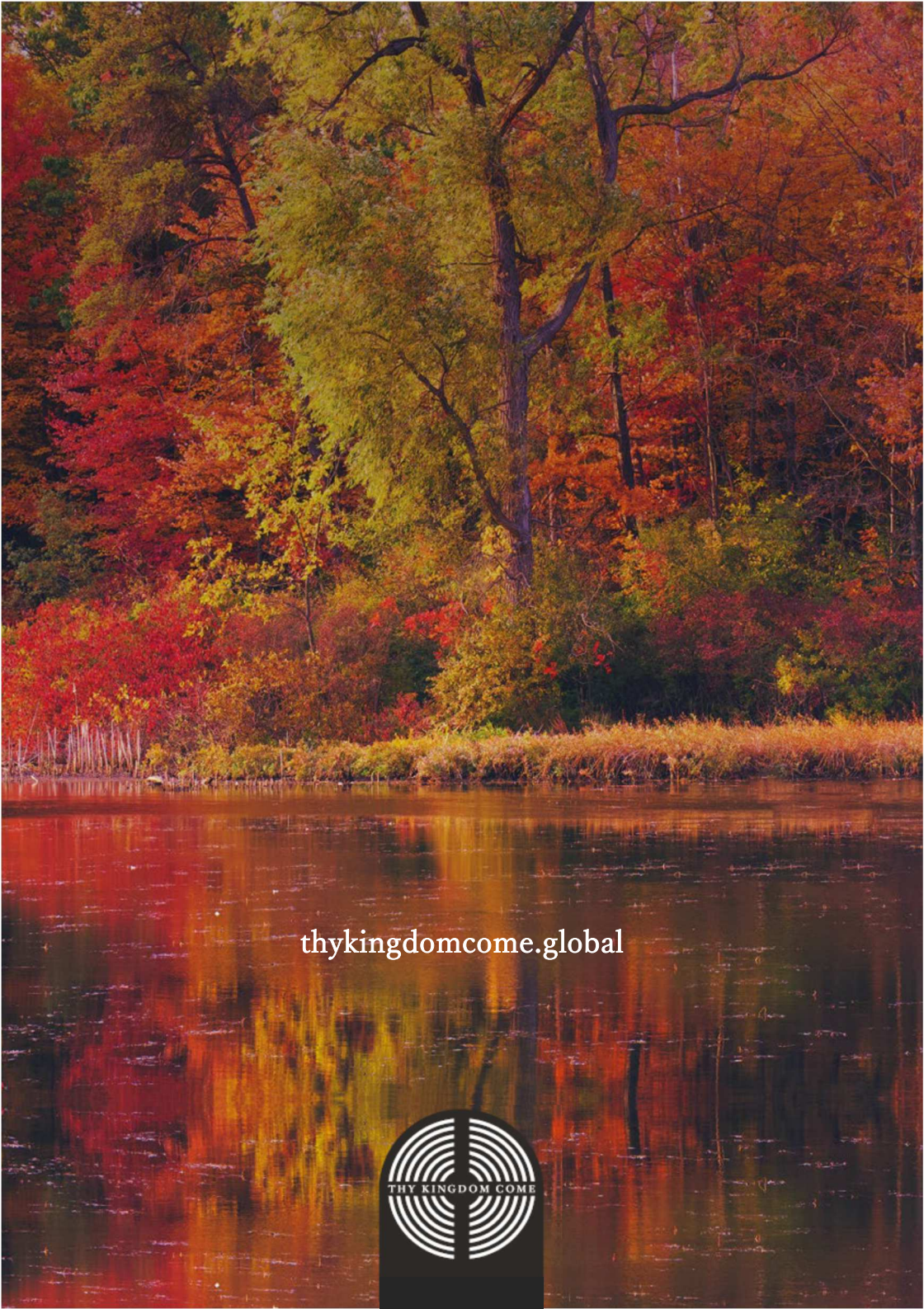
聖霊降臨のしるしは、風、炎、言葉の 3 つです。

「風」は、よちよち歩きの教会を、快適な場所からエルサレムの街頭へと吹き飛ばしました。聖霊のしるしとしての鳩の描写は、イエスの洗礼のときだけにしか使われていません。聖なる従順な神のみ子を導くしるしは、優しい平和の鳩。教会は、どうでもいいことを相談する会議室で安住しがちな教会を突き動かすしるしは、強い風です。

「炎」は神聖さを語ります。それは神の神聖さのしるしであり、モーセと燃える柴の話にまでさかのぼります。過去の失敗、恨み、罪、そして恐れを焼き払う炎。神のみ国を生きるということは、神の霊が私たちを少しでもイエスの姿に近づけてくださるようにと、また自分の力だけではなり得ないような人にならせてください、と切望することを意味します。

「言葉」。当時、エルサレムにいた人のほとんどは、何とか通じる程度にはギリシャ語を知っていたと思われます。しかし、それは彼らの母国語ではありませんでした。そして、「言葉」や聖霊降臨日の「異言」はまさにそういうものなのです。神は全世界に、ほかの言葉や膨大な神学的速記法を学ばなくても、福音を耳にする権利をお与えになりました。多くの場合、言葉はインサイダー、つまりすでにクラブのメンバーになっている人に向けられたものです。イエスはそのようなことはなさらず、聖霊降臨日は私たちにもイエスと同様の行いをするようにと促しています。

この 11 日間の祈りの中で私たちがイエスに引き合わせようとしてきた大切な人々が、神の偉大な愛に応え、新しい命を受け取ることができますようにと、引き続き祈りましょう。私たちが神のみ国で、しっかりとまた愚直に生きることができるように祈りましょう。「そうすれば、世は、あなたが私をお遣わしになったことを信じるようになります。」ヨハネ 17:21


thykingdomcome.global
THY KINGDOM COME